

5-1 東海・南関東地域の地震活動（1994年5～10月）

Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts (May-October, 1994)

気象庁地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)は1994年5月～10月の東海・南関東地域における月別震央分布図、第2図(a)・第2図(b)は1994年5月～7月と同8月～10月の3か月毎の震央分布図を示す。いずれも震源の深さが90km以浅の地震の震央を示してある。第3図は1994年5月～10月の主な地震の発震機構解である。

この期間、東海地域で特にと目立った地震活動はなく、東海地域の周辺部にあたる滋賀県中部で5月28日のM5.2の地震により、四日市と彦根で震度4を観測した程度である。静岡・神奈川県境付近では10月22日頃からM4.9（25日）を含む小規模な活動があった。この他、長野県西部でごく小規模な活動が断続的に起こっているが、5月下旬と8月下旬から9月初めにかけて活動が一時的にやや増加した。一方房総半島周辺では、6月29日に半島の南端付近でM5.2の地震、8月7日に千葉県東方沖でM5.0を最大とする活動、9月11日に房総半島南東沖でM5.1の地震、10月29日にはM4.9とM5.2の地震が起こるなど、やや活発である。

各月の活動状況は次のとおり。

1994年5月：東海地域では浜名湖付近で19日にM3.4（深さ24km）の地震があった。愛知県周辺では、三河湾で6日と28日に、愛知県中部で27日に、それぞれM3クラスの地震があった。このうち28日の地震（M3.8、深さ15km）では名古屋などで有感となった。長野県西部では下旬にM4.0、深さ8km（22日）の地震が発生するなど、やや活発である。滋賀県中部では28日にM5.2、深さ44kmの地震があり、彦根と四日市で震度4、名古屋、津、岐阜、京都、敦賀、上野で震度3を観測するなど広い範囲で有感となった。また、29、30の両日にも同地震の余震を観測した（本巻別項参照）。関東地方では、27日に東京都直下でM4.0、深さ42kmの地震が発生し、東京で震度3、横浜で震度2を観測した。

1994年6月：東海地域とその周辺地域に関しては、静岡県中部（3日、5日および11日）、三河湾（20日）、愛知県中部（27日）でM3クラスの地震があった。新島・神津島周辺では、神津島付近で12日にM3.3の地震が起こった後、14日5時55分に新島西方沖でM4.0、同20時47分に新島付近でM3.1の地震が発生した。新島西方沖ではM2クラスを含めると、14日から15日にかけて10個程度の地震が発生している。新島・神津島付近では今年3月から4月にかけてやや活発な群発活動が起こっている¹⁾。関東地方では、17日に神奈川県西部でM3.1（深さ12km）、19日に茨城県南西部でM4.1（深さ56km）の地震がそれぞれあった。さらに29日には館山市付近でM5.2（深さ60km）の地震があり、勝浦、網代で震度4、東京、横浜、千葉、館山で震度3を観測した。この他、京都府中部では28日にM4.6、深さ15kmの地震が発生し、京都で震度4、津と奈良で震度3になるなど、近畿地方を中心に広い範囲で有感となった。

1994年7月：東海地域は静穏な状態であるが、7日に駿河湾南部でM3.0の地震があった。この付近でM3クラスの地震は3月2日以来である。また、26日には静岡県中部でM3.6の地震が発生した。深さは43kmであったが、現地では有感となった。八丈島の北方（1日）、新島付近（7日）、愛知県中部（12日）でM3クラスの地震が1個ずつ起こっている。一方、関東地方では、20日千葉県北部

と東方沖で、共にM4.3で有感となる地震が起こっている。鹿島灘でも27日にM4.0の地震があり、水戸で震度3を記録している。なお、22日から25日にかけて伊豆大島で小規模な群発地震があった。地震の規模はすべてM2クラス以下の微小なものである。この他、22日にウラジオストック付近で深さ約550kmM7.6の地震が発生したため、東京、小名浜、柿岡で震度3になったのをはじめ、釧路、盛岡などで震度2になるほど、かなり広範囲で有感となった（本巻別項参照）。

1994年8月：東海地域は静かな状態が続いている。小規模であるが、1日に山梨県南部でM3.8、深さ14kmの地震があり、有感地震となった。同日、近くの富士山付近でもM1クラスの地震6個、深さ10～20km、が起こっている。静岡県内ではM1～2クラスの活動が身延山付近（散発的）、天竜川中流付近（13日～14日）、静岡県中部（30日）などの地域にやや固まって発生している。また、愛知県北部（17日）と新島付近（31日）でM3クラスの地震があった。関東地方では7日に千葉県東方沖で有感地震5回を含み、M5.0を最大とする地震活動が起こったが、8日頃までにほぼ終息している（本巻別項参照）。8月末から長野県西部で地震活動がやや活発になった。

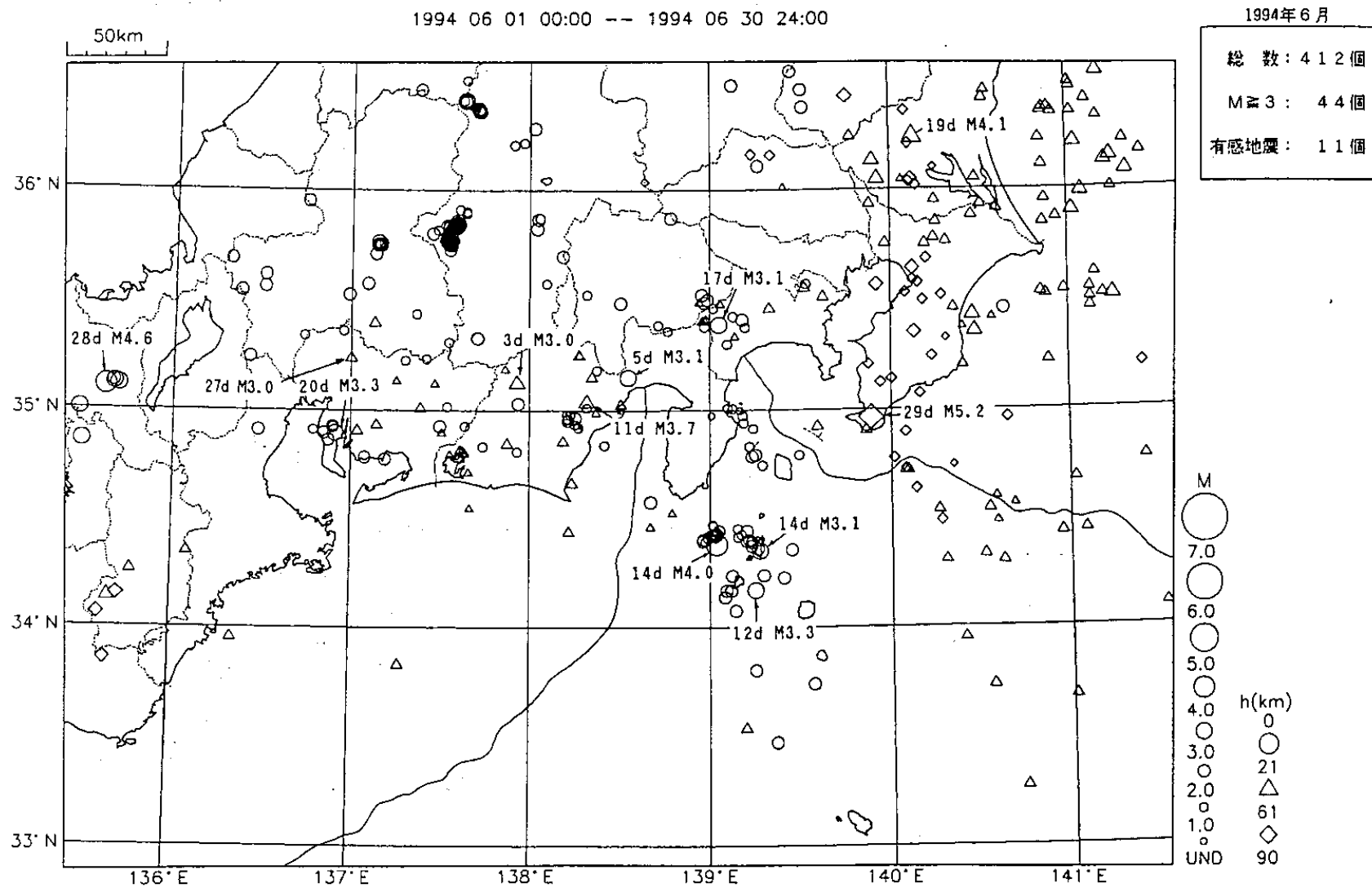
1994年9月：東海地域は静かな状態が続いているが、静岡県東部の富士川付近で27日にM3.0（深さ17km）の地震があった。この地域の活動レベルは比較的低く、M3クラスは年間1個程度である。岐阜県南東部（5日）や愛知県中部（19日）でもM3クラスの地震が起こっている。三重県中部では6日にM3.7の地震が起こっている。また、新島付近では2日から4日にかけてM3.1を最大とする若干の活動があった他、22日と30日にもM3.0の地震があった。長野県西部では1日にM4.0の地震が起こり飯田で震度2を観測した。関東地方では千葉県北部（3日）と中部（4日）にM4クラスの地震（深さ80km）があり、共に有感となった。また茨城県中部（6日）でもM4.2（深さ約50km）の地震が起こり、水戸と柿岡で震度3を観測した。茨城県沖（26日）ではM4.0の地震があり、水戸で震度2を観測した。11日には房総半島南東沖でM5.1（深さ77km）があり、館山と三宅島で震度3、勝浦、東京などで震度2となった（本巻別項参照）。

1994年10月：東海地域では特に目立った活動が無い。岐阜県南東部では4日にM4.0、深さ45kmの地震があり、有感となった。また、10日には紀伊半島南東沖と伊勢湾中部でM3クラスの地震がそれぞれあった。伊豆半島周辺では、4日に神奈川県西部でM4.3の地震があり、東京、横浜などで震度2を観測した。この神奈川・山梨県境付近ではM3～4クラスめ地震が度々発生している。また、静岡・神奈川県境の芦ノ湖付近では22日M3.5、25日M4.9の地震を含む活動があり、25日の地震では小田原（無人観測点）で震度4、三島、網代で震度3を、それぞれ観測した。これらの震源は主に芦ノ湖南西部、深さ数kmに集中している。芦ノ湖は箱根火山のカルデラ内にあるが、25日の地震のメカニズムは主圧力軸が北西－南東を向く横ずれ型を示している。箱根の外輪山の南には丹那断層があるが、この断層の周りでは1930年に活発な地震活動があり、同年11月にM7.3の北伊豆地震が発生している。25日には新島と三宅島の中間でもM3.2の地震があった。この他、12日と23日にもM3クラスの地震が東海道はるか沖、銭洲海嶺周辺で起こった。

関東地方では、千葉県中部で17日M4クラスの地震（深さ約70km）が18時22分と19時17分に起こり、共に東京、横浜などで震度1を観測した。また、房総半島南東沖で29日にM4.9の地震（深さ約70km）が起こり、東京、勝浦、館山、網代、三宅島で震度2を観測した。

参 考 文 献

- 1) 気象庁地震予知情報課：新島および神津島周辺の地震活動（1994年3月）、連絡会報、52（1994）、248-251.

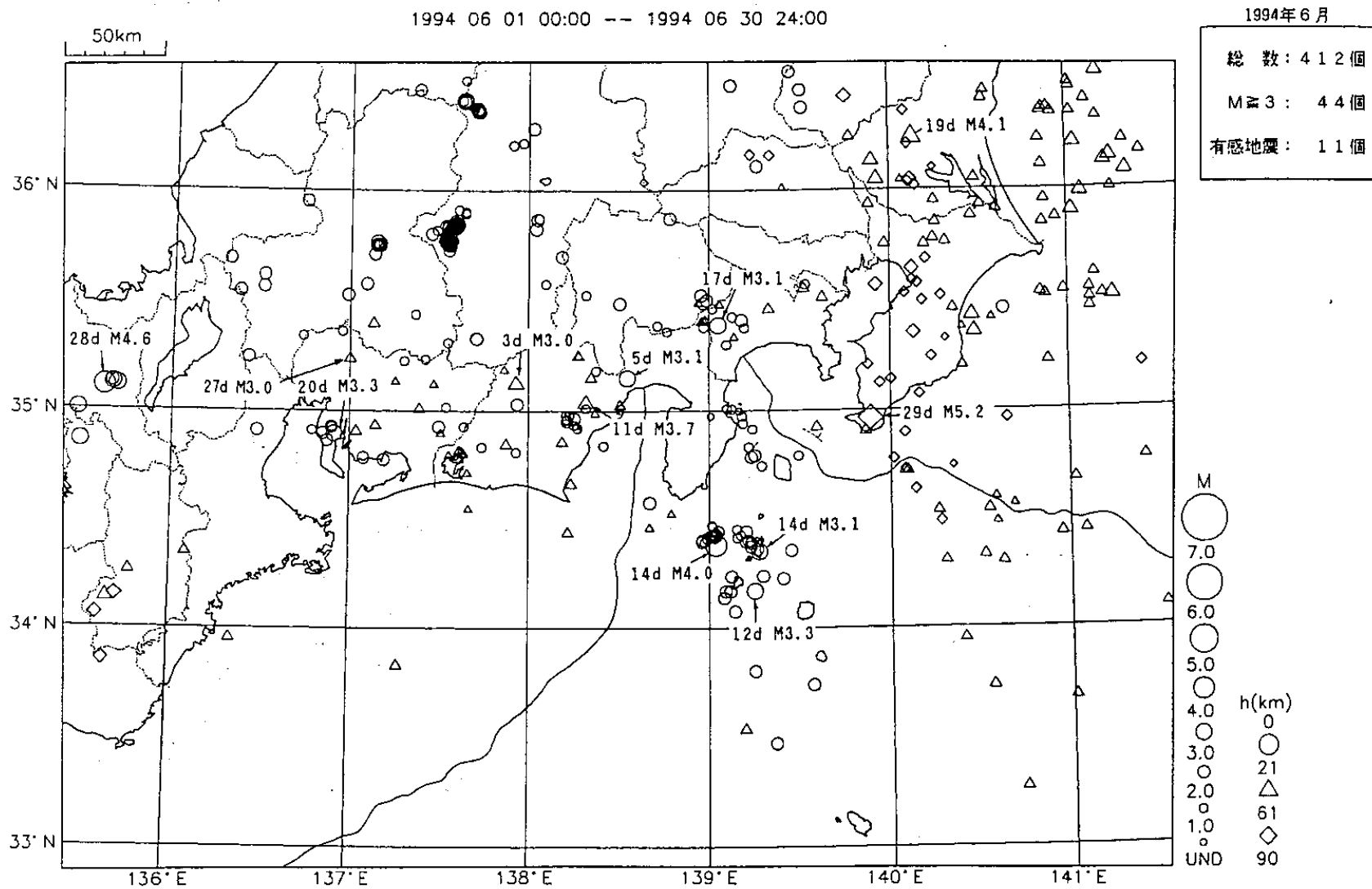


[暫定]

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第1図(a)~(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1994年5月~10月)

Fig. 1 (a)-(f) Monthly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for May-October, 1994.

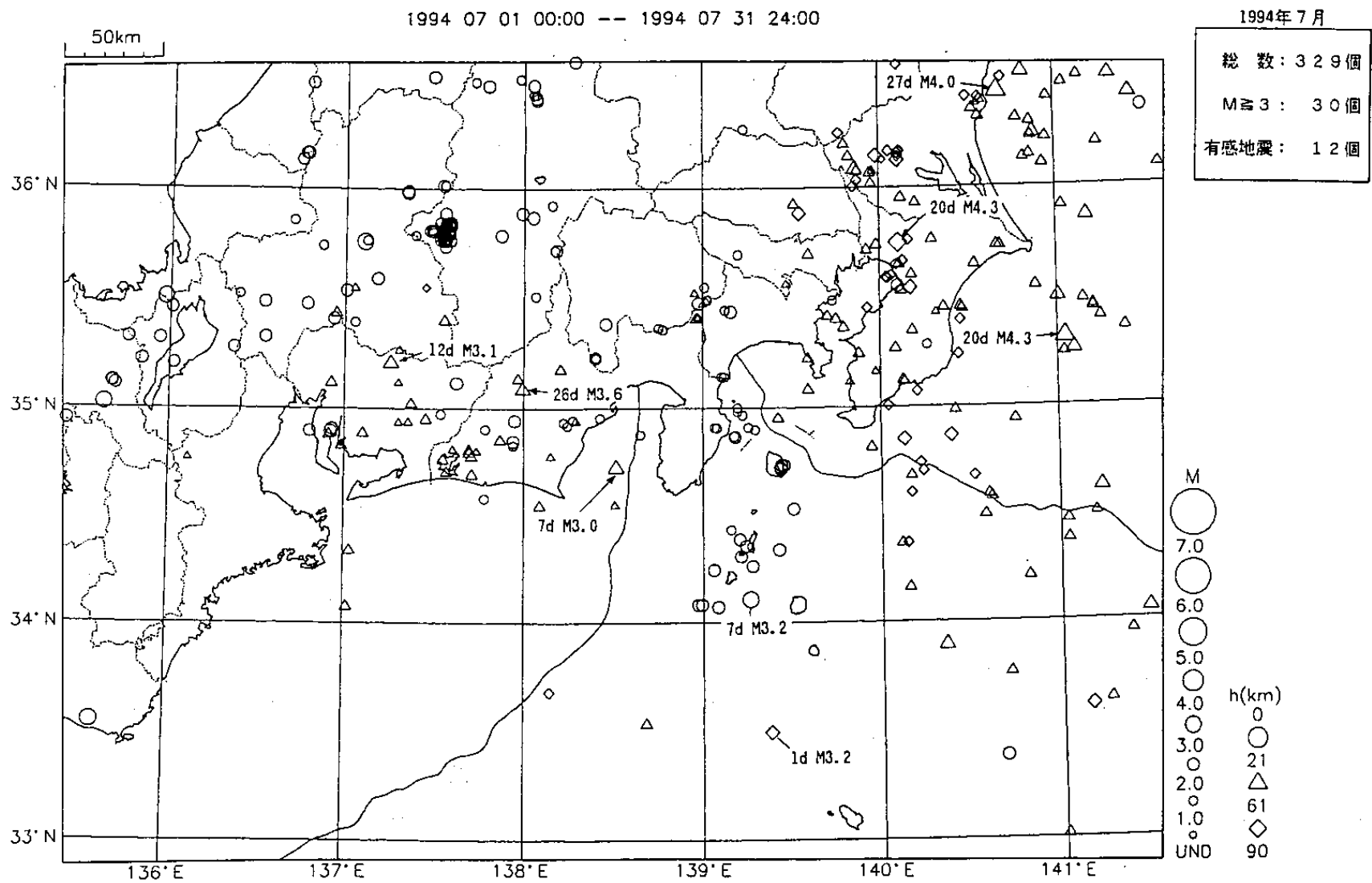


[暫定]

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

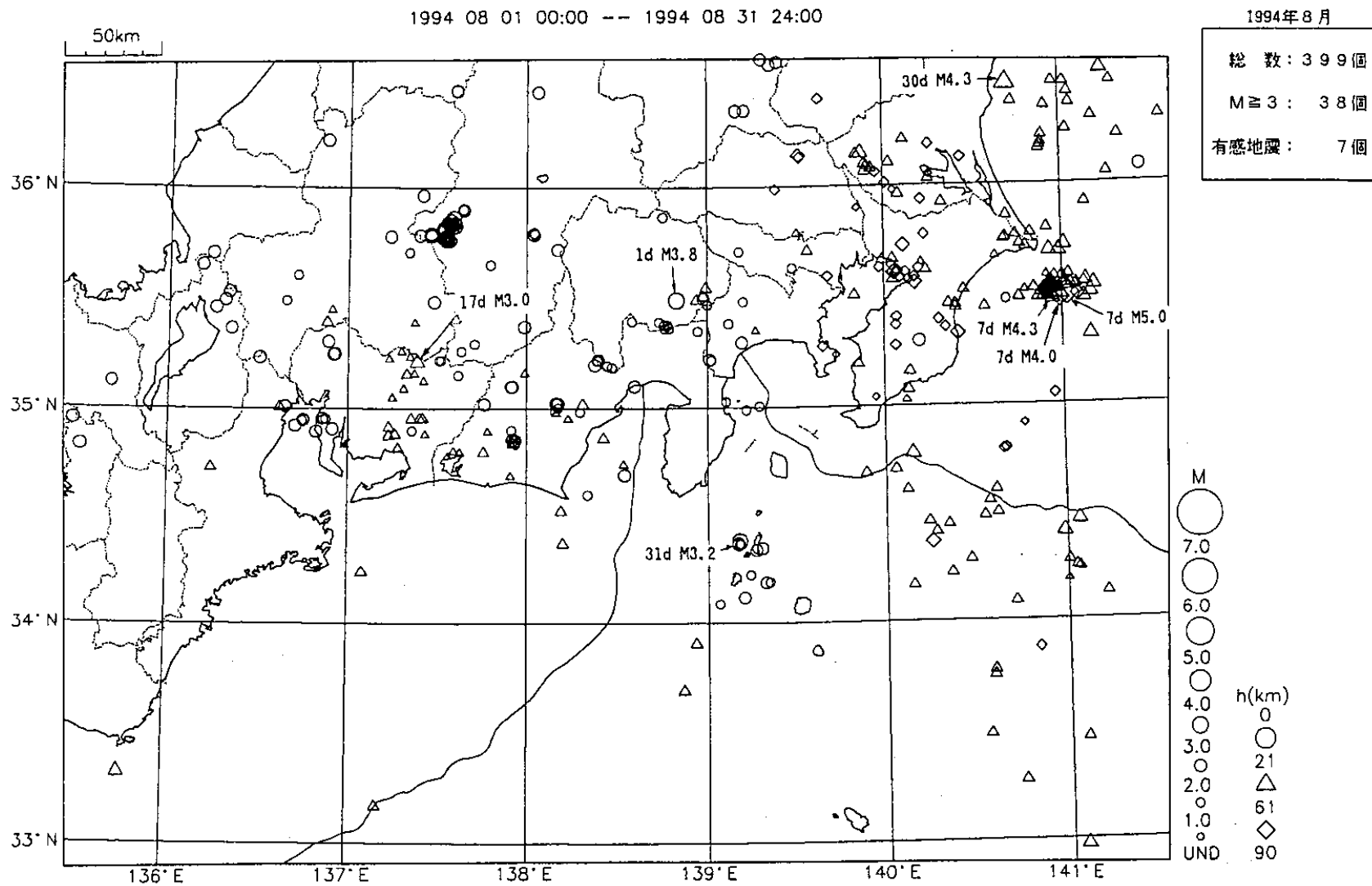


【暫定】

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

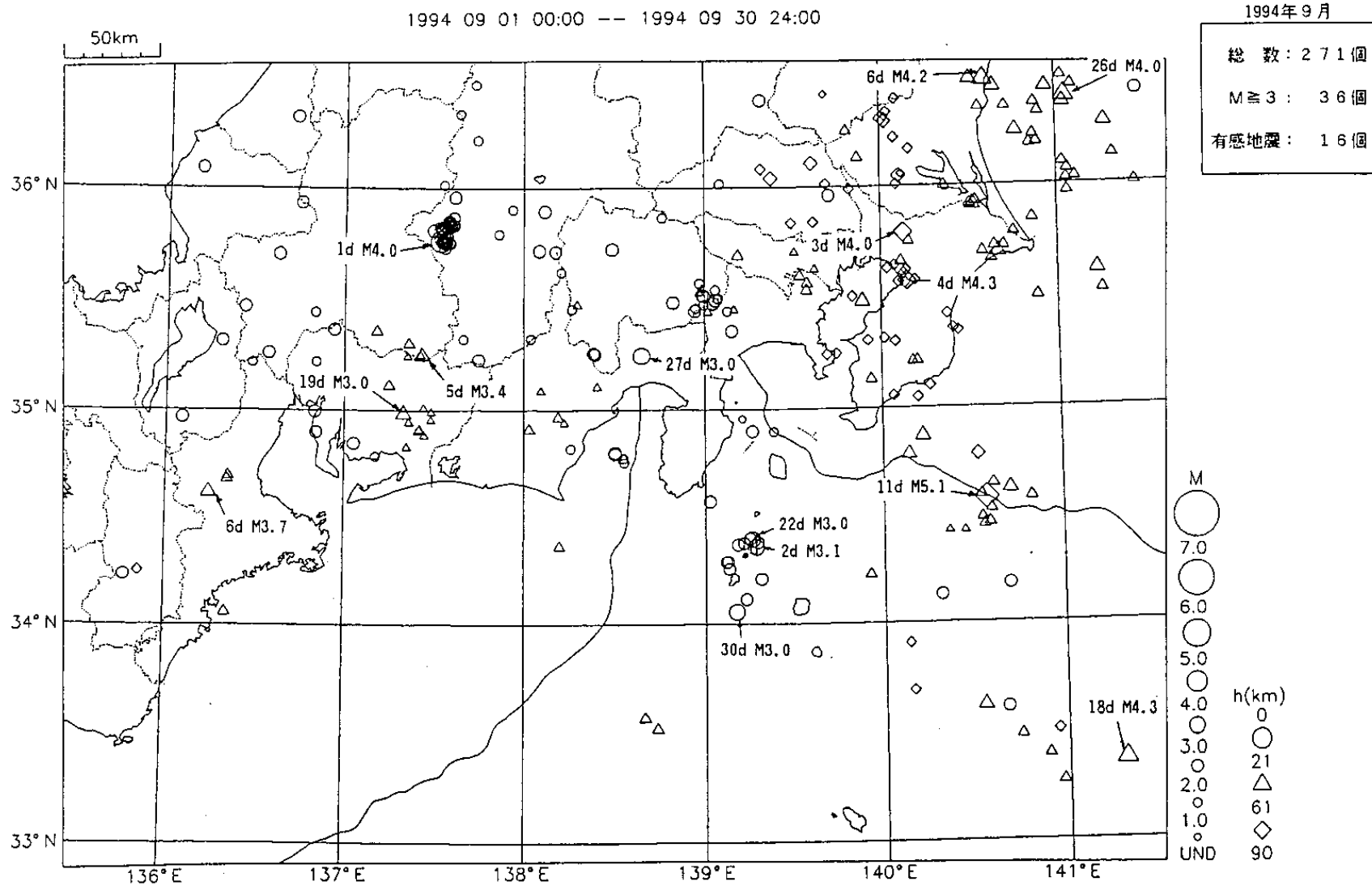


[暫定]

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

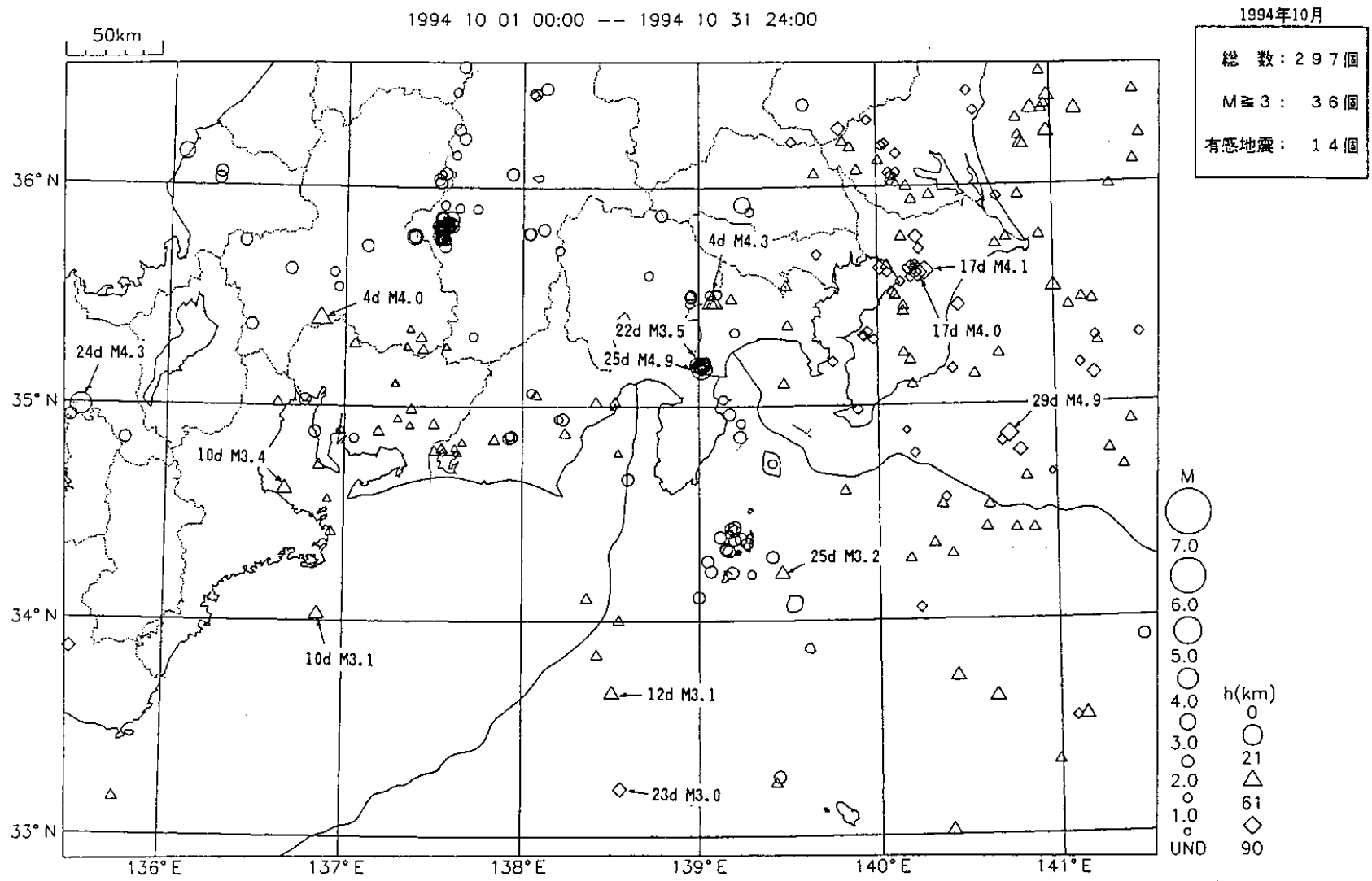


[暫定]

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第1図 つづき

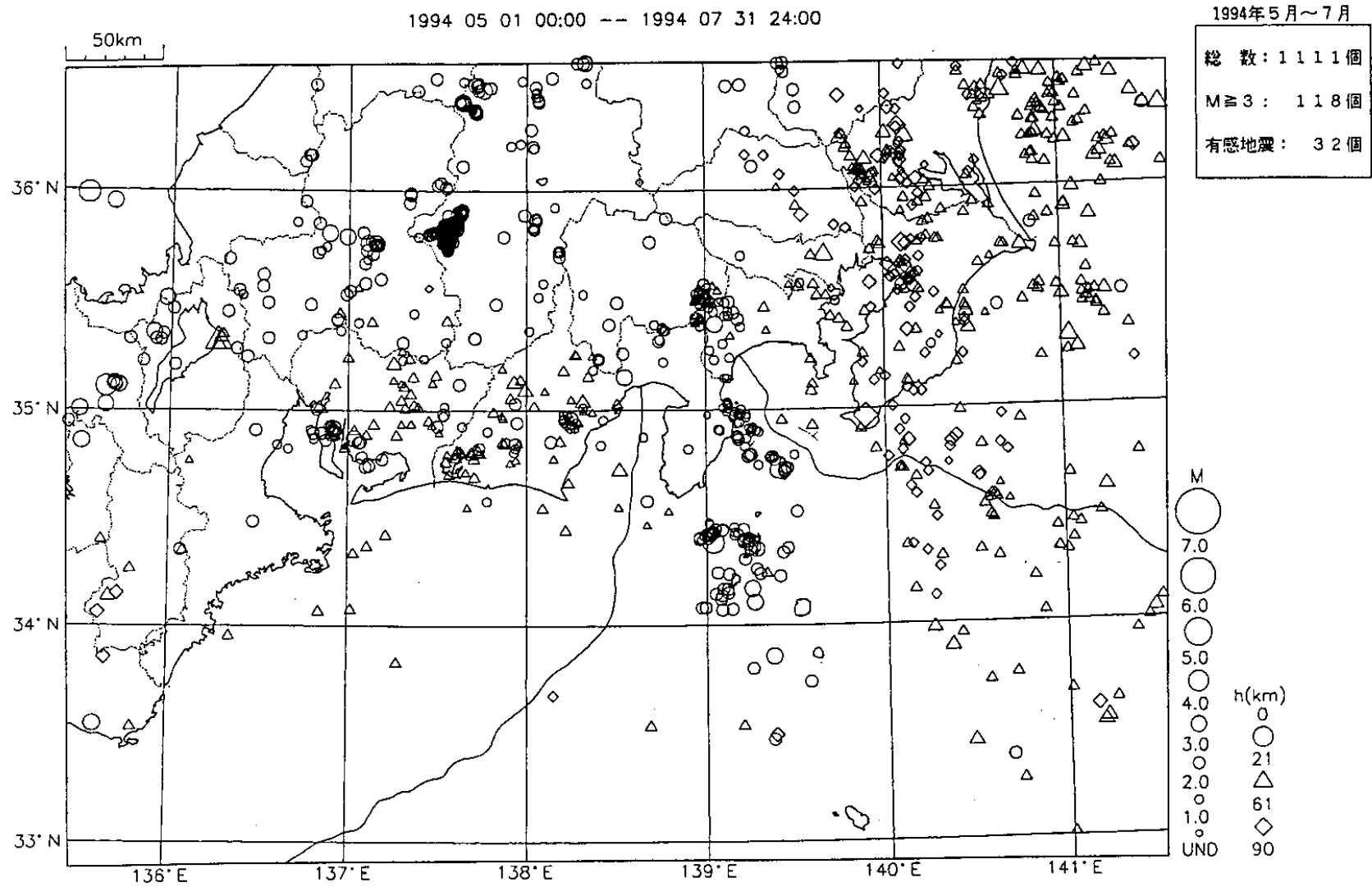
Fig. 1 (Continued)



[暫定]

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第1図 つづき
Fig. 1 (Continued)

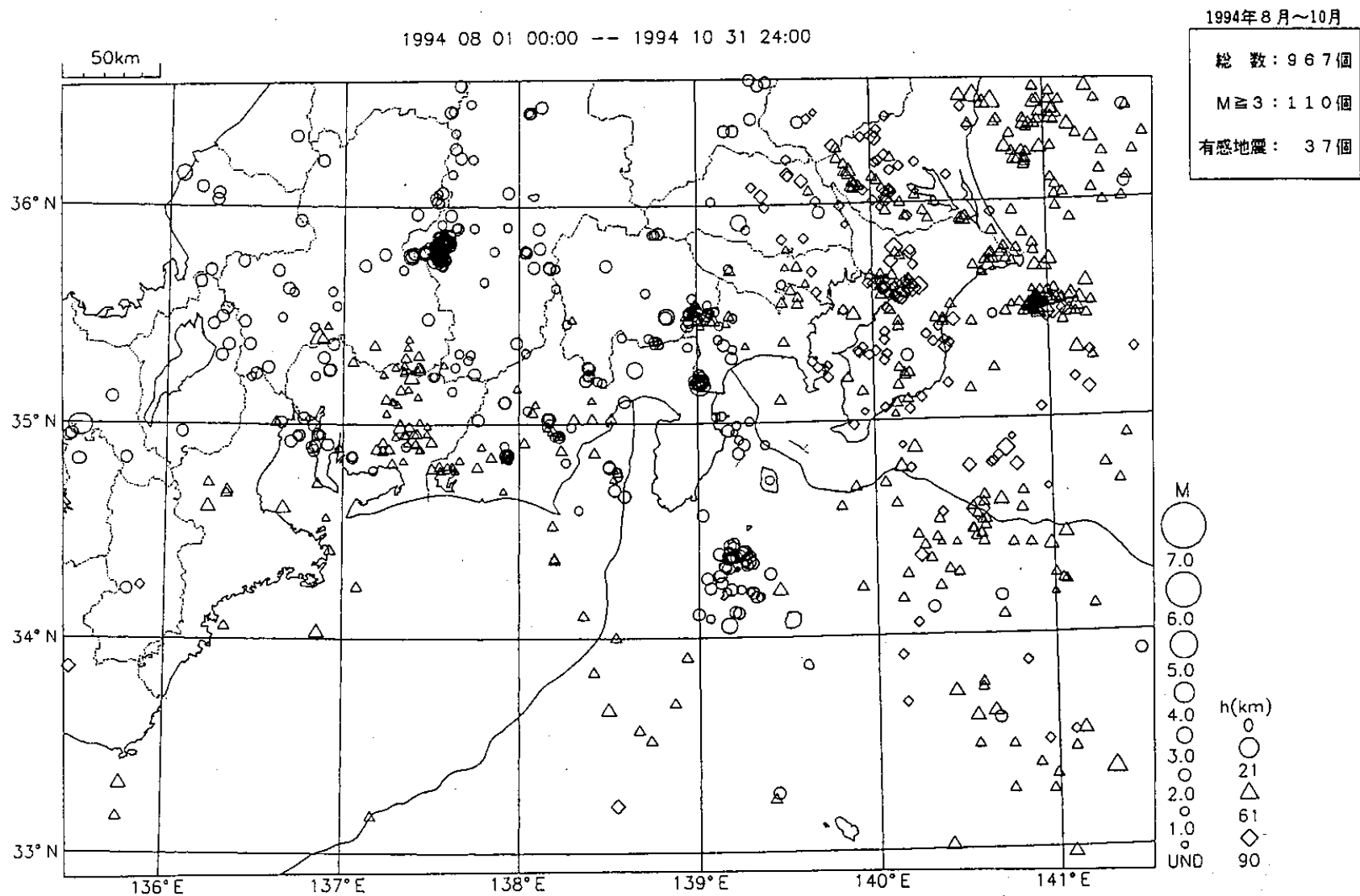


【暫定】

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第2図 東海・南関東地域に発生した地震の3か月毎の震央分布 ((a)1994年5月~7月, (b)1994年8月~10月)

Fig. 2 Quarterly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for (a) May-July, 1994 and (b) August-October, 1994.

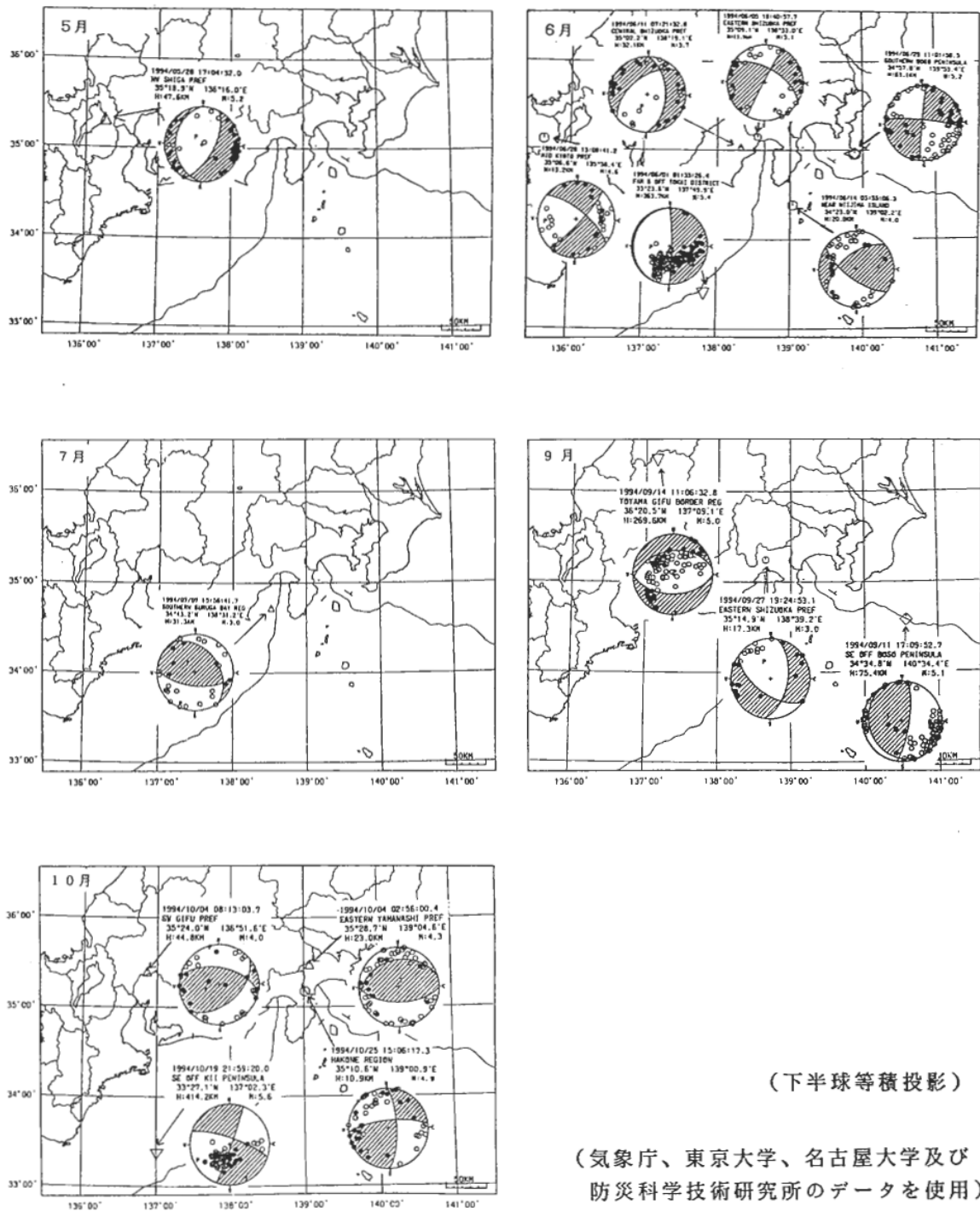


[暫定]

(気象庁, 東京大学, 名古屋大学, および防災科学技術研究所のデータを使用)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



第3図 東海・南関東地域に発生した主な地震の発震機構解 (1994年5月~10月)

Fig. 3 Focal mechanism solutions of main earthquakes in the Tokai and Southern Kanto Districts for May - October, 1994.